

第1回 川越市初雁公園基本計画審議会 指摘事項とその対応

初雁公園の整備に係る前提条件の整理及び課題について

項目		発言者	指摘事項	指摘事項への対応
川越城址の とらえ方	史跡の本質的 価値	委員	<ul style="list-style-type: none"> 史跡の本質的な価値が何なのかもう少し具現化していかないといけない。県指定史跡なので、当然ながら本質的価値はある。 	<ul style="list-style-type: none"> 史跡川越城跡のとらえ方として、史跡の川越城跡の本質的価値と、史跡の本質的価値を構成する要素及び史跡の維持・向上の基本方針を暫定案として整理した。これを前提条件として、課題、基本方針及び空間構成他をまとめた。 <p style="text-align: right;">P.1、2、5、6、10、15、16、17 参照</p>
		会長	<ul style="list-style-type: none"> 史跡としての本質的価値の説明があった。真正性の問題について盛んに言われる時代なので、これについては明らかにしておかないといけない。 	
	歴史的変遷	会長	<ul style="list-style-type: none"> 川越城の歴史的な話だけではなく、現在に至るまでの歴史も必要である。歴史は積層されていくので、古い歴史だけを見ているだけでは、どうするかは見えてこない。何故この場所が運動公園になり、野球場が整備されたのか、理由があるはずである。 	<ul style="list-style-type: none"> 川越城を中心とする歴史の他、近現代の歴史の変遷についても年表、変遷図及び関連資料等により整理し、川越城址及び初雁公園の近現代の歴史的役割をとらえ直した。 <p style="text-align: right;">P.1、3、4、付属資料-2、3 参照</p>
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 都市の史跡というものは、新しいものがどんどん乗っかってくるものである。近代のものがかぶっているので、どういうスタンダードとして評価するのかという問題が出てくるだろう。必要なものと、あるべきものが、どのようなものなのかという判断が必要になってくる。 	
委員	<ul style="list-style-type: none"> 色々な要素と色々な時代のものが入っており、どのように整理していくのか。時代を選ばないといけないのではないか。 			
委員	<ul style="list-style-type: none"> 共通理解をするためにも、本丸御殿、三芳野神社、富士見櫓跡、中ノ門掘跡の4つの歴史の変遷を年表で整理してほしい。 			
城址公園及び 初雁公園の とらえ方	富士見櫓跡	委員	<ul style="list-style-type: none"> 富士見櫓跡については、ボーリング調査や基本設計を既に実施しており、櫓の復元は可能だと聞いている。この機会にある程度の整備の見通しを立てるべきではないか。富士見櫓は天守閣に代わるシンボリックなものであったと思うので、城址公園の価値を高めるという意味でも、公園の範囲に含めてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 富士見櫓については、まず、短期では富士見櫓跡を安全に見学できるように環境整備を行う。次に、基盤整備に課題があり多額の費用を要するため、中期の早い段階で、検討を行い、整備の見通しを立てた上で実施する。 <p style="text-align: right;">P.18 参照</p>
	市制100周年 事業	委員	<ul style="list-style-type: none"> 市制100周年までは、時間も限られているので、100周年でできることは限られている。あくまで100周年は記念事業として部分的に整備を行い、110周年、120周年に完成するような大きな計画をイメージする。 	<ul style="list-style-type: none"> 初雁公園及び城址公園の整備については、短期、中期、長期の段階的整備とする。市制100周年の平成34年(2022)までを短期として、実現可能な目標を設定し整備する。それ以降を中期として公園全体の再整備を行う。更に、長期としては、具体化することは困難であるが、公園の隣接地など史跡川越城跡内の土地利用の状況変化に対応していくものとする。 <p style="text-align: right;">P.18 参照</p>
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 市制100周年まで後5年なので、どのような整備をするのかを決める。また、市制100周年が終わった後は次のステップへ進むことを示す。 	
初雁公園整備 への期待	委員	<ul style="list-style-type: none"> 海外で日本の武道に興味を持っている人がおり、日本へ修行に訪れたり、国際的な大会で訪れている。伝統と文化をセットにして「武道と観光のまち川越」にしたい。野球場を移転した跡地に将来的には新たな武道館をつくりたい。外国人観光客に利用してもらうことを期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> 初雁公園は、史跡川越城跡の歴史拠点や、新たな観光拠点となる城址公園の中心的な役割を担うという位置付けと、川越城址及び初雁公園の近現代の歴史的役割を踏まえ、これからの初雁公園の整備コンセプトを整理した。また、史跡の本質的価値を守り、活かしながら、武道の活用、子育て、高齢者対応、飲食の導入なども含め、公園利用プログラム(例)や空間構成を整理した。なお、建物の新築等については、史跡川越城跡にあることより、現状変更に伴う条件から遺構の保存に支障が生じるため、困難となっている。 <p style="text-align: right;">P.10～17 参照</p>	
	委員	<ul style="list-style-type: none"> 古さと新しさのある川越のまちにふさわしいものが望ましい。スポーツ施設は費用がかかりすぎるし、限られた地域をより子どもや高齢者が喜ぶような施設を整備してほしい。 		
	副会長	<ul style="list-style-type: none"> 歴史や史実を公園の中に表現するのは難しいのではないか。公園利用のニーズも変化してきており、飲食や多目的な文化の香りなど新しい要素を盛り込んでいく必要があるだろう。 		

項目		発言者	指摘事項	指摘事項への対応	
城址公園及び初雁公園のとらえ方	初雁公園整備への期待	委員	<ul style="list-style-type: none"> 川越市民にとって、初雁公園はスポーツをする公園だと感じていると思う。城址公園として検討を進めるのであれば、野球場を移転する等ははっきりと位置付ける必要があるのではないか。町並み観光だけでは限界があると思うので、大きな大会が開催できるような武道館を城址公園の中に建て替えてはどうか。 初雁公園は市内の子ども達が学習目的で訪れることも多く、お弁当を食べたりするために、雨天でも大人数が収容できる簡易的な施設で良いので、市制 100 周年を目途に整備を行ってはどうか。 	P.10～17 参照	
	三芳野神社	委員	<ul style="list-style-type: none"> 三芳野神社のことを知らない市民が多く、知名度を観光の方で高めてほしい。三芳野神社は氷川神社よりも格が高い。 観光ガイドの方から、川越には梅の名所がないと言われたことがある。三芳野神社の参道には梅の木があるので、名所にしたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 史跡の本質的価値の一つとして、「城の鎮守としての三芳野神社の社叢・参道及び周辺の土塁群に城址としての景観を留めていること」とあり、三芳野神社は、川越城址の真正性を高めている、史跡の本質的価値を構成する要素であるため、その存在意義を更に周知できるようにする。 	P.1、5、10 参照
	川越城址と城址公園のとらえ方	委員	<ul style="list-style-type: none"> 城址公園の概念と史跡の整備がどのようにつながるのかを、整理する必要がある。川越城址の本質的な価値が何なのか、一方で城址公園としてどのように整備していくのかという具体的な話がある。この2つの問題をつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本質的価値を構成する要素としての本丸御殿や中ノ門堀跡、富士見櫓跡、三芳野神社などを含む範囲を城址公園とし、順次、その他の本質的価値を構成する要素の顕在化により拡大していくものとする。 	P.5、8 参照

初雁公園整備方針について

項目		発言者	指摘事項	指摘事項への対応
城址公園及び初雁公園整備について	野球場とプール	会長	<ul style="list-style-type: none"> 資料に野球場とプールの移転又は廃止を記載しているが、6 回審議会を開催する間に、事務局で野球場とプールの移転・廃止については、考え方を取りまとめてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 初雁公園の野球場及び市営プールは県下最大の運動公園のシンボルとして戦後復興を牽引してきた。しかし、その野球場、プールも現状では施設が老朽化し、時代のニーズにあわなくなり、存続にあたっては建て替えが必要となっているが、史跡川越城跡にあることより、現状変更に伴う条件より、遺構の保存に支障が生じる建て替えは困難となっている。 一方、初雁公園の位置付け（案）や整備基本方針（案）では、運動公園としての位置付けを見直し、歴史公園として再整備する方向としている。仮に野球場、プールを存続させた場合には再整備可能区域が限られ、基本方針（案）の実現が困難となっている。 これらより、初雁公園再整備に当たっては、野球場及びプールの存続は困難と考えている。
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 市全体のスポーツ振興の観点からのすり合わせをした上での移転・廃止という話なのか。野球場は移転、プールは廃止と読み取れる。初雁公園の野球場は、近年の他の球場と比べると若干狭い。しかし、甲子園の 2 回戦予選まで、毎年 10 試合弱は実施している。伝統があるので野球関係者からは大切にされている球場である。 	
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 野球場とプールの移転もしくは廃止については、本審議会で決定することはできない。この話をはっきりさせないと、次のステップへ進めない。 	
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 議会でも既存の野球場は手狭で、もっと広い場所への移転の意見は出ている。また、市長は前向きに検討すると言っている。場所やお金の問題があるので、早急に決めることはできないと思う。 	
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画の中では、野球場やプールの移転・廃止についての議論はされていない。 	
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 史跡の中にある野球場は老朽化したときに、それを更新するのかという議論なった場合には、野球場は史跡に相応しい施設なのかという検討が必要になってくるのが通常の文化財側の考え方である。 	
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 市内に公営・民間のプールが多数あり、初雁公園のプールは老朽化が進んでいることや、管理の手間からも、そろそろ見直す時期にきているのかもしれない。 	
		会長	<ul style="list-style-type: none"> プールは今まで税金で管理運営してきた。これからは市民や PARK - PFI で民間企業が担うようになってくる。もし民間企業が初雁公園でプールを運営するということになると、大変なことになるだろう。 	

項目		発言者	指摘事項	指摘事項への対応
城址公園及び初雁公園整備について	城址公園整備	委員	<ul style="list-style-type: none"> 国内での城郭の整備や保存・活用の観点で見ると、金沢では惣構の堀の部分を顕在化させていく事業を進めている。主軸の城郭だけではなく、城郭全部を囲んでいる施設、いわゆる惣構が大事なのである。 	<ul style="list-style-type: none"> 郭、土塁、堀、現存建造物等、地形・地割等、道路に区分し、遺構の種類ごとの取り扱いを整理した。これにもとづき、空間構成に反映させている。 P.16、17 参照
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 本丸御殿、三芳野神社、富士見櫓跡の3カ所をバランス良く散策できて、それが段々と広がっていくようなものが良いのではないか。 	
	城址公園と城下町とのネットワーク	委員	<ul style="list-style-type: none"> 周りの城下町とどのようにつないでいくのかを、示していかないといけない。城郭を中心として、周りの町との関係を考えることが大事である。初雁公園と外とのネットワークづくりを積極的に進めても良いのではないか。川越城址だけではなく、城下町も含めた観点を盛り込んで検討した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光拠点としての城址公園としては、蔵造りの町並み、喜多院、氷川神社の各方面への誘導を行い、回遊性を強化することで、相乗効果を発揮させる。例えば、川越城、川越藩、城下町をテーマとした小江戸川越みどころ観光コースなどを有効に活用する。 P.9 参照
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画の中でも、城下町という言葉も頻繁に使っていない。城下町と言うよりは宿場町のイメージを持っている観光客が多く、城下町という雰囲気を出し出すものはあまりない。 	
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 初雁公園をにぎわい等の中核にするとあるが、残念ながら初雁公園は、川越市全体から見ると中核にはなり得ない。しかし、拠点として考えるととても重要なので、大手門や蔵造りの町並みとつながる関係性を重要視して検討を進めていくというビジョンを本審議会でも共有して、市民にも共有していくということがステップとして重要なのではないか。 	
	整備基本構想	委員	<ul style="list-style-type: none"> 約30年前に策定した整備基本構想から現在までに、何ができて、何ができていないのかを整理してはどうか。また同じ様なことにならないようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成元年の整備基本構想策定以降、平成2年3月に博物館の供用開始、平成11年度から16年度にかけては富士見櫓跡の調査と基本設計等、平成20年度から22年度にかけては本丸御殿の保存修理を行ってきた。構想が実現出来なかった原因は、本来、整備基本構想は平成元年時点での将来ビジョンを示したものであり、その後の計画、設計が進まず、民家、川越高等学校の移転などの事業手法や整備プログラムが整わなかったためと考えられる。 P.6 参照
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 何故、整備基本構想から現在までにできなかったのか分析する必要があるのではないか。 	
		委員	<ul style="list-style-type: none"> 初雁公園は、小さいことからでも良いし、100周年までに何かしら手をつけておくということが重要である。一つでも部分的にでも、何かしらできていれば、市民もこういうふうになくなるとか、こういうふうな発展性を市が選んだと共有されていく。 	
	公園機能の見直し	委員	<ul style="list-style-type: none"> 防災機能の避難場所としては建物を作らない方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 初雁公園の導入機能として防災機能の発揮を位置付けており、空間構成でも広場を確保している。また、公園利用プログラム(例)のなかで、健康をテーマとした、利用プログラム例を示している。 P.12、13、17 参照
		会長	<ul style="list-style-type: none"> 超高齢化社会なので、レクリエーション機能の中に「健康」の項目を追加した方が良い。 初雁公園は災害対策上とても大事である。 	

まとめ

項目		発言者	指摘事項	指摘事項への対応
まとめ		会長	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画策定に当り、必要性和可能性(今できるところ)をきちんと峻別しないと行けない。あるべきということに関しては、公園行政と文化財行政を深く関連付けてないといけない。真正性がものすごく指摘されるので、そこをきちんと明らかにする。「整備基本構想」は従来型の公園づくりの構想で、その時代の公園のあるべき姿を計画にしたものである。今回の計画では全体を面として公園をつくるだけではなく、点と線で基本計画をしっかりと立てることで、面がイメージできる。公園が整備されてきた歴史や土地の歴史を振り返ると、もう少し新しいことも出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 史跡川越城址の本質的価値の保存活用としての城址公園及び初雁公園の役割と、歴史的資源を活かした中心市街地に近接する都市公園である初雁公園としての役割を整合させ、相乗効果が発揮できるようにする。また、初雁公園を面でとらえるとともに、城址公園として中ノ門堀跡、富士見櫓跡と連携し、城下町の中心市街地と連携するために、面から点と線でつなぐ考え方を示した。 P.5、7、8、9 参照